

POTT in 東広島

<訪問看護ステーション AOI ケアリングステーション> 報告

*本研修は、POTT プロジェクト、クラウドファンディング支援（2時間研修会コース）を受けましたが、新型コロナウイルス感染禍のため延期としていました。CF 支援の Y さんは、「地域に食べる喜びを伝えたい」との思いあり、AOI ケアリングステーションのご協力をいただき、研修の運びとなりました。皆様のご支援とご協力に感謝致します。 =POTT プロジェクト=

日時；2020年7月21日 8月11日 11時～13時

場所；広島県東広島市 AOI 訪問ケアステーション

目的：①ポジショニングと食事介助技術を理解することができる②食事の自立支援と誤嚥予防
③技術の伝承、定着、継続、④ケア技術力や教育力の向上

プログラム；講義30分・演習ベッド・車いすでのポジショニング、振り返り

演習：ベッド2台、車いす2台、2グループ（7～8名）

資料；講義資料、当進行表、新型コロナウイルス感染症流行期におけるスキルチェック表

講義・ファシリテーター 迫田綾子 坂田温子 山代恵美子 藤井宝恵(広島 POTT メンバー)

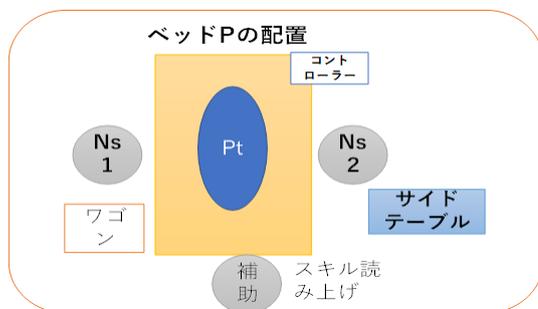
1日目



2日目



演習



COVID-19 感染流行禍に伴う演習対応

1. 今回、「COVID-19 感染流行期におけるスキルチェック表」を初めて使用するにあたり、主 Ns の装備を“いつ”どのように行うかを打ち合わせで確認した。
2. 患者役以外はマスク着用し、主 Ns 役はスキルチェック表「5」の段階で、フェイスシールド、グローブ、ディスポエプロンを着用した。
4. デモでは、講師が講義内容の補足を行い、主 Ns 役は途中で感染予防のための装備時間を若干要した。
5. ベッド上演習は時間の都合上、全員ローテーションできず、主 Ns 役は 1 人のみとなった。
6. 準備されていたクッション数種類を利用し、円背患者への使用方法など追加説明した。
7. 時間延長のため、車いす演習はスキルチェック表を使用せず、講師がデモによる説明を行い、良肢位、不良肢位の体験のみに留まった。

◎ベッド上ポジショニング+食事介助

参加者には、前日にスキル表の事前チェックをお願いした。

- ① POTT30度 食事介助、食後のポジショニング（全介助、気配り、安全、安楽）
- ② POTT60度 食事介助 食後のポジショニング（自立支援）
- ③ 不良姿勢体験 クッション等のサポート類を全て除去し、食事
- ④ ベッドダウン クッション対を入れて開始、リクライニング位 15度とする
- ⑤ 体験共有 患者役：体感を言語化（声かけ・手の動き・身体感覚・食べやすさ等）
- ⑥ 交代 一人目15分 二人目10分 三人目10分



ポイント

⇒電動ベッドは、角度が微妙に異なることがあるため角度計で正確に測っておく。またポジショニング前の寝姿勢を整えるため、ベッド背上げ部分の事前チェックをしておく。

⇒食事介助では、食べやすさに影響するためスプーンの持ち方、挿入方法、舌への接地部位を意識してすすめる。

◎車椅子ポジショニングデモと演習

準備品：足台、テーブル（クッション・座面シート）

ポジショニング全体デモ 1・2Gに分かれ車いす演習



ポイント⇒車いすは種類が多々あり、事前に構造と機能をチェックして調整部分をアセスメントする。座面調整は段ボールを中央に敷き、上にクッションを載せた。背面は POTT 用バスタオルを使用。車いすの最奥に座っているかを確認することで、安定したポジショニングができる。
⇒上肢の位置が適切にできているか確認。できていない場合は、バスタオルや U 字クッションなどで、必ずサポートする。食事の自立や疲労予防効果あり。

◎まとめ

参加者及びファシリテーターで気づきや明日からできることを出し合った。2回とも5分程度しか時間を取れず、後日参加者からのコメントをいただいた。

<1回目受講者の気づき>

- 今回、初めてPOTTというポジショニングで食べる喜びを伝える活動を知った。看護で、誤嚥性肺炎や食事介助で向き合う場面は多く、食事におけるポジショニングは、誤嚥予防、安楽だけでなく、食事量の増加、時間の短縮につながることで、食事の自立に導いていくことが分かった。
- 体験学習では、スプーンテクニックや端巻きタオルの使い方、背抜き・尻抜き・足抜き、等々でも勉強になった。
- 今まで私は、自分が介助しやすいようお膳や皿をセッティングしてきたが、Ptが見えるようなセッティングやスプーンを運ぶ角度などの配慮する大切さを知った。
- 学びを実践できるよう、学びが定着できるよう練習を重ね実際にいけたらと思う。

- 食事の姿勢は誤嚥予防のため重要という漠然とした知識だった。今回初めて患者体験によりポジショニングの実際を行い、たわみの補正やアームの調整の姿勢をとり、まずは「食べよう！食べたい！」の気持ちになるポジショニングだと感じた。食欲がわいてくるような積極的な気持ちになり、それが食事の自立や食事量の増加につながり、体力もつきと、好循環をもたらす。タオル一つ、板一つの工夫で食への行動が変化するのだと理解できたとともに、もっと早くわかっていたら実践できる場面がたくさんあったのに、と思う。

- ベッド上ポジショニングについて
両脇にタオルを入れること、円背の方へのタオルの使い方、足底にクッションを入れることについて知り、今まで難しそうだなという感じがしても、そこまでつながらなかった。
- 車いすポジショニングについて
背中と底面にタオルや板を入れることを知り、しかたがない折りたたみだから、こんなものだから、という考えがあり工夫していなかった。身内へ工夫していなかった反省する。

- POTTという言葉も初めてでした。食事介助にポジショニングが必要だということは知っており、口腔ケアも誤嚥からとても大切だと思っていました。
- ポジショニングでは、足底の必要性、リクライニング位も介護度により角度や食事内容が違うこと、姿勢では腕のポジショニングや、骨盤を立たせることが大切だと理解できました。
- 実際には補助役しかできなかったが、正しいポジショニングにすることで、していない時の差を感じる事ができました。現在訪問している利用者に活かしていけたらと思います。ありがとうございました。

- 今回患者役を体験することで、クッションやタオルの有無や置く位置の少しの違いで、食事のしやすさ、姿勢の安定さが大きく違ってくことを体験できた。今日学んだことを、利用や家族にも伝えていくことができるようにしたい。

- 姿勢一つで飲み込みやすさ、飲み込みにくさを体感できた。
- 楽しみながら食べるには、ポジショニングが大切なことを改めて感じた。
- 食事の時だけでなく普段の生活からW/C坐位から見直す参考になりました。
- 家族への指導もできるようになりたいと思います。ありがとうございました。

- 頭でわかっていたつもりでも、一つ一つ言語化し体感していくことで、いかに理解できていなかったかを思い知らされました。改めて基礎から学びなおし正しいケアを実践できるようになりたいと思います。
- 途中で研修を抜けてしまうことが、とても残念ですが、また後日他のスタッフに教えてもらいながら学ばせていただきます。本当にありがとうございました。
- 工夫すれば食べられる。自分らしく食べられることは人としての尊厳と権利を守られる。

ファシリテーターの振り返り

- 参加者の積極的行動により演習がスムーズに実施できた
- 病院とは違い、在宅で実際に接する患者を思い浮かべながらの演習ができていた。
- 時間的余裕がなかったが、車いすの演習時間がとれてよかった。
- 理学療法士は、普段よりポジショニングされていることから、具体的に感想を述べていた
- 今回密を避け、2回の研修に分割したが、スムーズな進行につながった。
- 2時間コースは、タイトなタイムマネジメントを要する。

おわりに

- 新型コロナウイルス禍の影響で延期していた研修会がやっと実現できました。新しいスキルを使うに当たっては、準備物品や進め方の事前打ち合わせをして臨みました。ステーションの協力や参加者の感染対策も現場で実施されており、円滑に進んだように思えます。
- 在宅療養者のポジショニングでは困難事例がたくさんあり、参加された方々が非常に真剣に演習をされていました。学んだ者から次の人に伝承するという POTT プログラムが、在宅ケアで活かされると確信しました。
- 研修時間が2時間とタイトであり、摂食嚥下と姿勢の関連やスキルを十分にはお伝え出来なかったのですが、定期的なスキルチェックにより技術向上を図って欲しいと思います。
- POTT 研修会はきっかけ作りであり、個人やチームのトレーニングで技術は向上し、成果は要介護者の方々が示して下さいます！

○最後に、杉本由起子管理者から「地域に食べる喜びを伝えます」と力強い言葉がありました。

追記：2回目の研修会終了後、困難事例についてスタッフとPOTTメンバーで、ミニカンファレンスを実施しました。双方、非常に有意義な時間となりました。



写真：2回目参加者